

# 【事業名】中央アルプス野生ライチョウ受け入れ事業

(長野県長野市)

【団体名】一般社団法人長野市開発公社 (長野市茶臼山動物園)

令和5年度 生物多様性  
保全推進支援事業  
実績報告書別紙10-6

## 事業の背景・目的

- ・ライチョウは1980年代では約3,000羽と推定されたが、最近では2,000羽以下に減少しているとされ、絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧ⅠB類にカテゴリが引き上げられた。減少しているライチョウを回復させるために、環境省によって中央アルプスへの野生家族の移植が行われた。
- ・飼育下での野生復帰に資する個体の増殖等のためには、衛生管理を含めた飼育技術の開発と施設整備が必要である。
- ・中央アルプスで繁殖したライチョウ家族の一部を動物園に移送し、それらの個体を繁殖させて再び野生復帰させ中央アルプス個体群復活事業に寄与することを目的とする。

## 事業の内容

- ・中央アルプスでケージ保護して雛鳥の初期育雛を実施した家族を動物園に移送し、動物園において飼育、親鳥による自然繁殖、野生順化を実施し、飼育下で増殖した個体による野生復帰を図る。令和3年度に1家族(母鳥と雛鳥3羽)を受け入れ、雛の生育後、同じく受け入れ園である那須どうぶつ王国と繁殖のため雄個体の交換(1羽搬出、2羽搬入)を実施した。

### 【衛生管理事業】

- ・アメリカ原虫を保有する野生個体用の衛生管理の下で飼育管理した。
- ・定期的な施設内消毒を行い、感染症による疾病の防止に努めた。

### 【飼育管理事業】

- ・令和4年度は2ペアを形成し、雛が2羽孵化、1ペアは未産卵であった。孵化した雛は親鳥による育雛を行い野生順化を進めたが孵化後3週間ほどで死亡した。
- ・令和5年度は、前年に未産卵であったペアで繁殖を試みたが、前年に続き未産卵であった。

### 【普及啓発事業】

- ・園においてパネル展を開催し、保全事業の情報発信をすると共に、ガイドや啓発グッズの配布などで子供達に興味を持ってもらえるよう普及啓発を行った。

## 得られた成果

- ・野生復帰個体飼育衛生管理基準に則り衛生管理を行ったことで、アメリカ原虫の逸脱を防ぎ、ライチョウの感染症を防止した。
- ・令和4年8月と令和5年9月に実施された中央アルプスへの野生復帰では、令和4年成鳥3羽(雄1羽、雌1羽)、令和5年成鳥2羽(雄1羽、雌1羽)を移送し、保護ケージに収容後、放鳥された。
- ・パネル展の開催、ガイド、啓発グッズの配布などにより、ライチョウ保全事業に対する理解を促進させた。
- ・今後、野生ライチョウ家族受け入れ事業で得た科学的知見や経験を活かし、日本動物園水族館協会の飼育下集団を用いた野生復帰事業に取り組んでいく。



図1：野生復帰した成鳥